

新型コロナウイルス感染症 ～PCR等の検査についてのこれまでの取り組みと今後の課題～

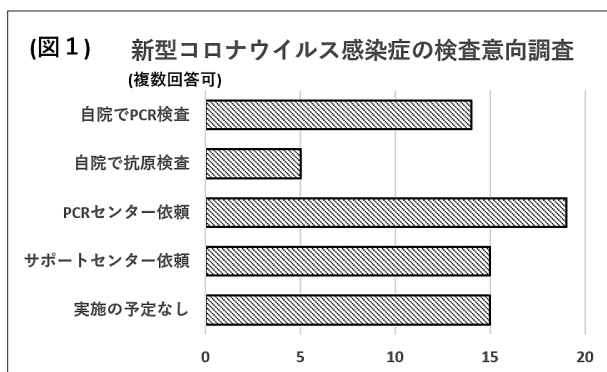
北村山地区医師会 会長 八 鍬 直

北村山地区は東根市、村山市、尾花沢市、大石田町の3市1町からなり人口は約93,000人の地域である。自治体が4つあること、さらに東根市の南端から北は尾花沢市の北端まで40km程度の距離があるため、時として複雑な対応を迫られることもある。

【PCRセンター或いは

サポートセンター設立への模索】

令和2年9月29日、11月からのPCR検査体制の変更に向けての山形県医師会と山形県の説明会が当地区で行われた。それを受けて翌9月30日に当地区医師会では会員を対象に「新型コロナウイルス感染症検査の意向調査」を実施した（図1）。



その結果、「PCRセンターに依頼」や「サポートセンターに依頼」が「自院でPCR検査（検体採取）」や「自院で抗原検査」を上回っていたことが判明した。当地区医師会では、自院での検査を行う施設を尊重しながら、PCRセンター或いはサポートセンターを設立する「併立」の形で新型コロナウイルスの検査体制を確立していくことになった。

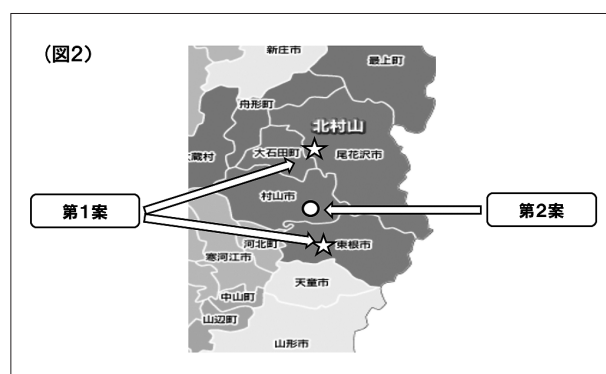


図2に示すようにPCRセンター或いはサポートセンターの設置は、北村山地区の地理的特性から東根市と尾花沢市の2か所（第1案）か、或いは中央部の村山市に1か所（第2案）に絞られた。

しかし当地区のような小規模な医師会にとって、単独でのセンター運営は困難と考えられ、またセンター設置に必要な診療所開設申請の手続きを迅速かつ簡略化するためにも、尾花沢市は尾花沢市中央診療所、東根市、村山市は休日診療所といった自治体立診療所の活用が妥当と考えられた。しかしながら休日診療所を運営する東根、村山両市とも乳幼児等の健診事業を診療所と同じ建物で行っている事情もあり、調整が難航し設立を断念せざるを得なかった。

【診療・検査医療機関への登録要請】

すなわち、この地区住民のための新型コロナウイルス感染症に対する充実した体制の確立は、診療・検査医療機関の登録をいかに増やすかの一点にかかってきた。

まず11月初旬に先進的な取り組みをしている医療機関（羽根田医院、小野内科胃腸科クリニック）による検体採取法の紹介、民間検査機関の展示・説明、そして柴田健彦県医師会常任理事によるG-MISの解説を主体とした説明会を実施した。

さらに、当地区医師会の東根市、村山市、北部（尾花沢市・大石田町）の3支部医師会毎に未登録の

医療機関に積極的な説明と要請を行った。その結果、11月中旬には登録医療機関は29に上った。尽力された各支部医師会代表の柴田健彦、奥山雅基、柴田雄二各氏には心から感謝申し上げる次第である。そして1月現在、登録数は33医療機関に至っており、内科・小児科・耳鼻科系の診療所の約90%で検査が行われている。

【表】 北村山地区内診療所における新型コロナウイルス検査

	PCR		抗原検査	
	保険診療	自費診療	保険診療	自費診療
11月	27 (0)	2 (0)	45 (0)	0 (0)
12月	203 (7)	10 (0)	49 (1)	0 (0)

() 内は陽性者数

表に11月と12月の地区内診療所での検査の実績を示した。PCR検査が11月の27件から12月には203件と飛躍的に増えており、これは患者の増加に十分に対応できている証であると考えられる。

【救急および休日診療・検査体制】

地域の中核病院である北村山公立病院では、救急診療の他に休日・夜間、そして保健所からの行政検査が行われている。年末年始に関しても、約20件の検査（PCR+抗原）が行われた。その年末年始に、尾花沢市・大石田町では在宅当番で、村山市では休日診療所でそれぞれ数件の抗原検査が施行された（村山市は正月3ヶ日のみ実施）。

新型コロナウイルス感染症は、急激に症状が重症化し死に至ることもある疾患である。また感染拡大を少しでも抑えるために、疑われる患者に対しては、例え休日診療であっても可能な限り迅速に診断し対処しなければならない。ここ数か月で流行が終息する可能性は低い。休日診療所が乳児検診等の健診事業も行う施設であるため、新型コロナ対応の診療所になることへの自治体の懸念は当然であろうが、特に5月の大型連休に問題が発生することがないように、今から自治体とも十分に協議を重ねていきたいものである。